第30回日本緩和医療学会学術大会

優秀演題
9-3

がんになった親をもつ思春期の子どもを支える Teen CLIMB® プログラム日本版の開発

当事者と支援者へのフォーカスグループインタビューによる適用可能性の検討

赤川祐子[1)5)]、大沢かおり[2)5)]、井上実穂[3)5)]、小林真理子[4)5)]

1)秋田大学大学院医学系研究科　看護学講座　2)国家公務員共済組合連合会東京共済病院　乳がん相談支援センター
3)独立行政法人国立病院機構四国がんセンター　4)聖心女子大学　現代教養学部　心理学科　5)NPO法人 Hope Tree

背 景・目 的

●がんになった親をもつ子どもは、心理社会的な困難に直面する。
特にTeenagerは、自我形成と親からの自立心の芽生えにより、親のがんに寄らずとも親子関係に困難をきたす。
Teenager自身が家庭の状況を理解し、孤独を緩和しながら適応するための構造化された支援の構築が必要である。

●本研究では、米国で開発されたTeen版 CLIMB®を活用し、日本での適用可能性を探り、日本版の開発を行う。

方 法

●**研究デザイン**:フォーカスグループインタビュー,質的記述的研究
● **対 象 者** :当事者(親のがんを経験した思春期の子ども)と支援者
●**調 査 期 間** : 2024年7月（支援者対象）・同年11月（当事者対象）
●**調 査 内 容** :背景(性別、現在の立場、年齢、がんの経験など)、Teen CLIMB®のプログラムのメリットと改善点
●**分 析 方 法** :質的記述的にカテゴリー分類。
●**倫理的配慮** :聖心女子大学研究倫理委員会の承認を得た(2024_08)

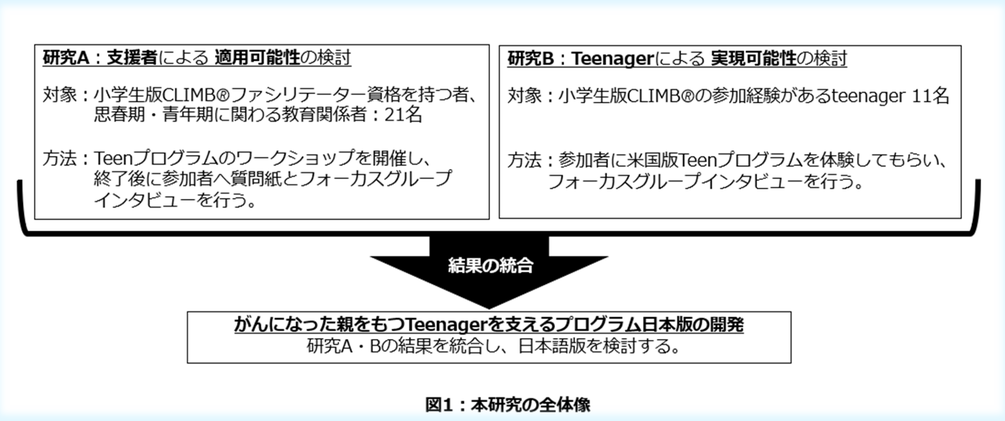


図1：本研究の全体像

Teen CLIMB®とは？

●**CLIMBプログラム**: Children's Lives Include Moments of Bravery
「子どもたちの人生には勇気ある瞬間が含まれている」というサポートプログラム。
米国Children's Treehouse Foundationが学童期の子どもを対象としたプログラムを開発し2010年からNPO法人Hope Treeが日本語版を作成し、全国で実施している。
2020年、思春期の子どもを対象としたプログラムが開発された。

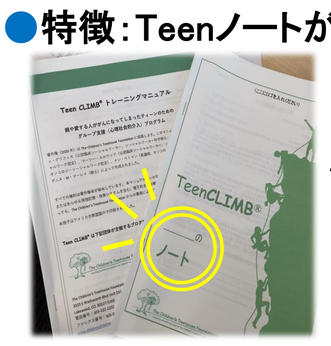
● **Teen CLIMB® の目的**（米国トレーニングマニュアル原文）

1. がん、がん治療、がん体験について年齢に応じた教育を提供する。
2. 愛する人のがんに関してteenが経験する様々な感情を落ち着かせ、そうした感情が正当なものであることを理解してもらう。
3. ティーンにツールや教育を提供し、愛する人の病気に伴うストレスや強烈な感情を認め、表現し、効果的に対処できるようにする。
4. 愛する人ががんになったteen同士が知り合う場を設け、感情やストレスへの対処方法を改善する機会を与える。
5. 愛する人のがんに関する経験や感情を共有し、安全な場所を提供する。

●**構造:6つのセッション**

回	目 的	気持ち	アクティビティ
1	愛する人のがんの話しを他人と共有し、孤独感を和らげる	幸せ・楽しい	愛する人のがんと私
2	がんとその治療について知識を得る	混乱	病院見学ツアー
3	悲しみの感情を表現し、緩和する	悲しい	気持ちのお面づくり
4	Teenの持っている強さを引き出し、不安を緩和する	怖い・不安	強さの箱作り
5	怒りの感情を適切に表現し、対処する方法を考える	怒り	ターゲット・プラクティス
6	がんと診断された愛する人とのコミュニケーションの手助けをする	別れの言葉と区切りの重要性	音楽と歌詞、励ましの言葉

●**特徴:Teenノートがある**



日記:テーマがある
例:「大切な人ががんになった時どう感じたか」
「家族の中で変わったことはあるか」
「家族のために何か願うことはあるか」等。

音楽: 自分の共感する歌や歌詞を共有する

詩 :自宅で読めるような付録として
（例 :思春期や喪失に関するもの）

結 果

表 1. 当事者の声　プログラムのメリット　*N*=11

カテゴリ	サブカテゴリ
同世代の仲間と素直に話し合い共有できること	同年代の仲間と素直に話し合い、共感し合うことで居場所が生まれること
	いいことも嫌なことも、仲間と共有できること
工作を通じて経験に意味づけし、ネガティブな感情を手放す方法を学べること	工作を通して感情や自己表現を深め、経験への意味づけができること
	怒りなどの感情を自由に表現し、体を動かして手放す方法を学べることで、すっきりとした爽快感や感情を受け入れる大切さを学べること
	工作を通じて、不安や恐怖などのネガティブな思いを間接的に表現できること
あたたかい雰囲気と傾聴が安心感を生み、自己表現が後押しされること	自分の感情を肯定的に受け入れ、話すまで待ってくれる雰囲気が安心感と発表の勇気を後押しすること
	真剣に話を聞いてもらい、褒められることで、安心して自分の気持ちを伝えやすくなること
	ファシリテーターの温かい対応や雰囲気があたたかく、本音を話せる安心感となること
自己表現や対話を通じて、自信や前向きな気持ちを得られること	自分の強みを考え、書くことで、自信がつき新しい発見を得られること
	詩を読むことで感情が揺さぶられたり、人に話を聞いてもらい代弁してもらうことで前向きな気持ちを得られること

表 2. 支援者の声　プログラムのメリット　*N*=21

カテゴリ	サブカテゴリ
ワーク(音楽、詩、塗り絵)を通じた自己表現と感情の整理ができること	音楽を扱うことにより、新たな発見や共感を生み出しながら自己表現を促進すること
	詩を通じて同世代の気持ちに共感し、自分は1人ではないと感じられること
	曼荼羅の塗り絵や絵を使った表現活動は、自己表現を促し、無心になれる時間を提供し、感情の整理になること
	ネガティブな感情を適切に表現な具体的なアクティビティを通じて、感情の整理や発散を促す手段が提供されていること
自己開示と自己受容が促進されること	自己開示や感情表現を無理なく進め、自分自身と向き合えるよう、落書きや日記などを活用しながら整理できること
	「一人じゃない」と実感できる支えとなり自分をだせること
	Teenノートには豊富な情報や考え方が含まれており、自分の状況に気づくためのツールとして価値があること
	ポジティブなフィードバックが、自分を受け入れる力を育むこと
安心・安全なファシリテートにより自己表現ができること	思春期の気持ちを書いた詩により、自由な自己開示ができる環境を提供していること
	ファシリテーターの柔軟な配慮により、個々のペースに合わせて自己表現がされていくこと
	ティーンが自分の気持ちが尊重され、大切にされていると感じる言葉が随所にあり、安心感を与えること
がんについて正しく学びを得られること	専門職からからがん治療について正しく詳細な説明を受けられること
課題解決を支えることで成長につながること	プログラムは楽しめる構造であり、6回を通してティーンが自然に自己成長を促進できること
	自己の内面を振り返り、課題を捉えて自分で解決するプロセスをサポートし、成長を実感できること
ノートが継続的な力になること	ノートが成長に合わせたプログラムで、その後の人生においても重要な力となること
	ノートを活用して振り返りができるため、継続的に役立つこと

【 当事者・支援者の声　改善点　*N*=35 】

●自身の「強み」を表現するのが難しかった→例やヒントがあるとよい
●怒りの表現に関する活動が恥ずかしく感じた → 見せることに配慮
●プログラム後の交流機会の確保→オンライン等での交流を希望

考 察

●**当事者の意見の特徴と適用可能性**

感情面での支え
感情が揺れ動く思春期に、親のがんに直面することで、孤独感や無力感を感じやすい。
これらの**感情を適切に受け止め、表現する機会を提供**している。

他者とのつながり
同じような境遇にある仲間との交流を通じて、「自分だけではない」と感じる。
子どもの**心理的負担を軽減**している。

自己理解と成長
単なる感情ケアにとどまらず、思春期の子どもが**成熟した視点を持つきっかけ**となり、**長期的な視野の変化**につながる。

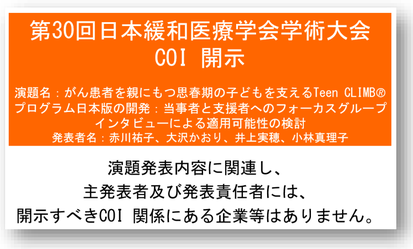
●**支援者の意見の特徴と適用可能性**

感情表出による心理的ケア
思春期特有の心の揺れを重視し、感情が整理できる。**思春期の心理的特徴に応じた柔軟な支援**につながる。

情報提供の効果
正確な情報提供が子どもたちの**安心感**や**理解度向上**に寄与する。

結 論

●当事者は感情に向き合い日常を取り戻せる場として受け止めており、支援者は思春期特有の心情への理解を深めることを評価し、おり、心理社会的な支えとしてプログラムの適用可能性は十分にある。
●当事者の一部は公然に自身の強みを表現することに抵抗を感じる者もいたが、感情認識や自己内省には前向きであった。今後、親であるがん患者側の文化的背景や家庭背景を考慮した検討が必要である。



本研究は、令和6年度笹川保健財団の助成を受けて実施した（2024-07）